

2年生が「被爆体験伝承講話」を聴きました

9月26日（月）、広島・神戸・大阪方面への修学旅行（10月25日～27日）を控えた2年生235名が、平和学習の一環として「被爆体験伝承講話」を聴きました。

広島平和文化センターから被爆体験伝承者の資格を持つ甲斐晶子さんをお迎えて実施したもので、在日韓国人であるイ・ジョングン氏の被爆体験から学びながら、原爆や戦争そして差別についても考える機会となりました。

講話の冒頭、甲斐さんは「ウクライナで核兵器の使用の可能性が示唆されている。「ヒロシマ」は決して昔の話ではない。自分たちに直接関係のある話として聞いてほしい」と話し、イ氏の生々しい被爆体験を熱心に生徒たちに語ってくれました。真剣な表情で聞く生徒たちにとって、核兵器の問題を自分事として捉え、考える貴重な学習の場となりました。

質疑応答の際には、生徒から「私たちは具体的にどう行動すればよいのでしょうか」との質問が出され、甲斐さんは豊川海軍工廠の空襲についても触れながら、「知ったことを誰かに伝えていってほしい。実際に行動して平和な世界を築いてほしい」と答えてくれました。

生徒は今後全員で折り鶴を折り、修学旅行で広島平和記念公園を訪問した際に、折り鶴を奉納しながら、平和や核の問題について学びを深めていきます。

